

第3章 上位計画・関連計画

1. 「創客創人」日南市重点戦略プラン（該当箇所抜粋）

人口減少、少子高齢化、社会インフラの老朽化、長引く地方経済の低迷、大規模自然災害の頻発などにより、社会情勢は厳しさを増しており、社会保障費や災害に備える経費など、苦しい財政運営を続けるなかで、行政需要は増大している。

地方創生や地方分権の動きが活発化するなか、限られた行政資源（ヒト、モノ、カネ）をどのようにまちづくりに活かしていくのか、これまで以上に「選択と集中」を念頭にした取組みが求められており、そのため、日南市重点戦略プランは、市民生活を守るための福祉・医療・介護などの事業については、しっかり取り組んでいくことを前提としたうえで、長期的な視点から、まちづくりのコンセプト（理念）を示し、市民ニーズの高い働く場の創出や商店・商店街の再生、子育て環境の充実などについて、重点的に取り組む戦略性のある計画となっている。

【コンセプト】

現状を打破するため、「人づくりこそがまちづくり」であるとの考えのもと、次のコンセプトを掲げる。

創 客 創 人

SOKYAKU-SOJIN

このコンセプトを市全体で共有し、市民一人ひとりが力を高めていくことで、活力ある産業、市の明るい未来が見えてきます。

創客創人とは

様々な分野において、今あるもの、資源の中から、人々が望む価値を見出し、それを実現する製品やサービスなどを創り出し、「新しい需要＝客」を創り、その客を幸せにする仕組みを創れる人財を育てることです。

戦略
働く場創出戦略

戦略
移り住みたくなるまちづくり戦略

戦略
住民による住民のための地域づくり戦略

戦略
次世代育成戦略

戦略

住民による住民のための地域づくり戦略

- (1)住民自らが地域の課題や問題を解決する住民自治の推進
- (2)防災対策、イベントの開催などを通じた、地域同士、集落同士の交流促進
- (3)高齢者の豊かな知識や経験を、地域や仕事の場で発揮できる仕組みづくり
- (4)子どもから高齢者までの多世代の交流が、子どもの見守りや高齢者の生きがいにつながるような、社会全体での子育て支援策の充実（戦略 3・4）
- (5)子育て世代が、「もう一人子どもを産み、育てられる」と決断できる環境づくり（戦略 2・3・4）
- (6)子どもの健やかな心身を育むための支援の充実（戦略 3・4）
- (7)地域課題の解決や地域資源の活用につながるコミュニティビジネスの促進（戦略 1・3）
- (8)自主防災組織の強化、防災訓練、防災教育の充実、津波避難施設の整備など、地域防災力の向上
- (9)みんなの支え合いのもと、住み慣れた地域で誰もが必要な医療・介護・予防・生活支援が受けられる地域包括ケアシステムの構築（戦略 2・3）
- (10)障がい者が地域で安心して生活を送るための保健・医療・福祉サービスや就労支援などの充実（戦略 2・3）
- (11)生涯学習で得た知識や技術を、地域や学校など社会で生かす場を設け、指導者となる人材の発掘・育成（戦略 3・4）
- (12)地域における健康づくりを推進する人材の育成や、生活習慣病予防対策など、健康寿命を延ばすための取組強化
- (13)生活習慣病の予防が、本人の幸せ、家族の活力、次世代の負担軽減につながるとの意識醸成
- (14)環境学習の推進などにより、地域での環境保護活動やごみ減量化を推進する人材の育成
- (15)地域が主体となった地域公共交通網の形成
- (16)東九州自動車道の全線開通に向けた、官民一体による積極的な要望活動の実施（戦略 1・2・3）
- (17)地域の力が生きる東九州自動車道インターチェンジ周辺の利活用（戦略 1・2・3）

2. 都市計画マスタープラン（該当箇所抜粋）

【本計画の役割】

まちづくり施策のマスタープランとして機能すること

本計画は、「まちづくりの基本方針」を策定し、都市計画に限らず、まちづくりに関する個別計画策定や施策全般の指針として機能することを目指します。

今後の都市計画に関する施策・事業の「指針」として機能すること

都市計画についても、集中と選択、ハードとソフトによる効果的な行財政投資が必要な時代を迎えたことを踏まえ、今後の適正な都市計画に関する施策・事業の指針として機能することを目指します。

まちづくりに活かせる「データブック¹」の機能も併せ持つこと

「各種の整備方針、計画等」を策定する際の前提となる数値的データを出来る限り地図上に示した分かりやすい「データブック¹」としての機能を持たせます。

将来へ向けて、まちづくりに活かせる要素や正確な情報をみんなが理解し共有することが本計画書の重要な役割です。

「マネジメント型²」の柔軟なマスタープランの機能を有すること

市町村の都市計画マスタープランは、概ね 20 年後という長期の計画期間で策定されることが一般的で、その見直し時期も明確な規定はありません。

本計画は、従来通りの長期的視点に立ち、都市の「健全な発展」や「秩序ある整備」に、「維持すべき内容は何か」という観点を加えて策定します。しかし、昨今の社会情勢の変化は早く、将来を見通すことは難しい状況です。そのため、本計画は、社会情勢の変化に柔軟に対応できる「マネジメント型²のプラン」となるように、定期的に更新し、見直しを行います。

1 「データブック」：点・線・面の地図情報と資料・統計情報等をできるだけ関連付けた総合情報。

2 「マネジメント型」：目的を効率的に達成するために維持・発展を図ることで、変化への対応も図る考え方。

【まちづくりの目標と将来像】

【まちづくりの目標】

緑と黒潮に育まれた、南那珂圏域をリードする元気な人や産業がある“まち”にします
投資効果の経営的視点を持って、「日南型のコンパクトシティ」を創ります
そのために、「どこをどんな場所にするか」の基本方針を定めます

【将来像】

“笑顔はじける まち 日南”

～ 市民自らが日南を支えていると実感し、人が集い、誰もが笑顔で暮らせるまち ～

“魅力あるまち” “元気なまち” “安心・安全なまち” “支え合うまち”

【目指すべき将来都市構造】(該当箇所抜粋)

まちづくりの最大目標として掲げた「コンパクトシティ³」の形態は、「一極・高密度集中型」の構造が、社会資本の投資効率から見れば最適です。

しかし、本市の合併の歴史や地形特性を基に形成された都市構成を考慮すると、目指すべき都市像は、現在、分散している生活拠点の特性を活かし、各拠点のネットワーク⁴を構築することで、拠点分散ネットワーク型を目標とした「日南型のコンパクトシティ」の創造を目指します。

【各拠点を結ぶために】(イメージ図)

今日の情報化社会の進展により「IT」を活用した情報の交流は盛んですが、地域コミュニティを維持するためには、人が移動し交流することが大切です。また、病院や買い物など、その目的に応じた多様な生活をするには、様々な人に合った、様々な交通体系を検討することが必要になります。



3 「コンパクトシティ」: 都市的土地利用の郊外への拡大を抑制すると同時に中心市街地の活性化が図られ、生活に必要な諸機能が近接した効率的で持続可能な都市、もしくはそれを目指した都市政策のこと。

4 「ネットワーク」: つながり。この場合は道路のほか、公共交通としてのバスや鉄道も含まれる。

5 「デマンドバス」: 利用者が希望する乗降場所や時刻などの要求に応じて、乗り合い方式で運行する。